

# 競技上の注意(個人戦)

審判長: 山田 健二

## ＜ルールについて＞

- 1 現行の日本卓球ルールを適用する。(11 点の 5 ゲームスマッチ)
- 2 タイムアウト制を採用する。ただし、1 マッチに 1 回、1 分以内を厳守すること。
- 3 公認のユニフォームの上下を着用し、日本卓球協会ゼッケンを着用する。
- 4 ダブルスは原則ユニフォームを統一する。
- 5 アドバイスルールの変更について  
『競技者は、それによって競技が遅れさえしなければ、ラリー中を除いていつでもアドバイスを受けることができる』 (全国高体連特別ルールから引用)

## ＜進行について＞

- 1 タイムテーブルをもとに、ベンチコール方式によって進行する。  
(あくまでも試合予定時刻の目安である。また、当該コートでの実施とは限らないため、放送に注意。)
- 2 1 日目の第 1 試合の審判は別紙記載の選手が行う。以降は、敗者審判による。
- 3 男子シングルス・ダブルス 4 回戦以降ならびに女子シングルス・ダブルス 3 回戦以降の敗者は進行席にて順次、県大会出場登録を行う。
- 4 1 日目は男女ダブルス決勝戦まで及び敗者復活戦と男女シングルス 2 回戦まで及び女子の敗者復活戦の試合、2 日目は残り全ての試合を実施予定とする。

## ＜県大会出場決定戦について＞

- 1 男子ダブルス (本戦トーナメント 3 回戦で負けた 32 組から、24 組を選ぶ)  
第 1 ステージ 32→16 (全 16 試合) 勝者 (16 組) は決定、敗者は第 2 ステージへ  
第 2 ステージ 16→8 (全 8 試合) 勝者 (8 組) は決定、敗退は終了
- 2 男子シングルス (本戦トーナメント 3 回戦で負けた 64 人から 50 人を選ぶ)  
第 1 ステージ 64→32 (全 32 試合) 勝者 (32 人) は決定、敗者は第 2 ステージへ  
第 2 ステージ 32→16 (全 16 試合) 勝者 (16 人) は決定  
※残り 2 人については、第 2 ステージの敗者 16 人のうち最も得失点率が高い 2 人を選出
- 3 女子ダブルス (本戦トーナメント 2 回戦で負けた 24 組から 4 組を選ぶ)  
トーナメントを 4 つのブロックに分けて 4 組を選びます。  
第 1 ステージ 外・内シードから遠いペアどうしで第 1 ステージ  
第 2 ステージ 第 1 ステージ勝者ともう一つのペアで第 2 ステージ  
第 3 ステージ 第 2 ステージの勝者どうしで第 3 ステージ
- 4 女子シングルス (本戦トーナメント 2 回戦で負けた 48 人から 8 人を選ぶ)  
トーナメントを 8 つのブロックに分けて 8 人を選びます。  
女子ダブルスと同様のやり方で第 3 ステージまでを実施  
それぞれのブロックで勝ち上がった 8 人が選出
- 5 11 点の 3 ゲームスマッチ (2 ゲーム先取) とする。
- 6 対象者は、本部にて本戦の結果処理および敗者審判後、決定戦本部席で参加確認を行う。
- 7 決定戦により、県大会出場の権利を得た場合、決定戦本部席にて順次、県大会出場登録を行う。
- 8 決定戦初戦の審判は本戦の敗者が行い、以降は試合のない決定戦勝者・敗者で指名する。